

名古屋きた災害ボランティアネットワークの活動について

社会福祉法人名古屋市北区社会福祉協議会

1 はじめに

毎年、日本のどこかで自然災害が発生しています。大規模災害発生時には不幸にも被災され日常生活に支障をきたす方が後を絶ちません。水害による家屋への土砂の侵入や地震による住居等の損壊により、途方に暮れる被災者の方々から悲痛な声が上がっています。

このような方々を支援するために近隣の地域を始め、全国から被災者を支援するために「困った人の役に立ちたい」という熱い思いをもったボランティアが駆け付けけるのは、ごく自然の流れになっています。

災害時にボランティアを受け入れ、被災者のニーズ（要望、困りごと）に合わせてボランティアを紹介する等の調整を行い、ボランティアが円滑に活動できるように支援するための拠点を災害ボランティアセンターと言います（以下、「災害VC」という。）。

名古屋市の災害VCは、行政が設置し、社会福祉協議会やボランティア、NPO等が運営を行う「公設民営」型のセンターです。災害発生時に、被災の規模を鑑み、概ね72時間以内に市内の被災地近辺に設置されます。

この災害VCを行政と社会福祉協議会と連携して運営するボランティア団体は、名古屋市の16区全てに組織され、日常的に活動しています。

今回はそのうちの1つ、名古屋市北区

で活動しており、平成22年に「第14回防災まちづくり大賞消防科学総合センター理事長賞」に輝いた「名古屋きた災害ボランティアネットワーク」について紹介させていただきます。

2 設立の経緯

平成12年8月に発生した東海豪雨災害を契機に愛知県・名古屋市の災害ボランティア養成講座を修了した北区内の16名の有志が、共に集い平成16年6月に「名古屋きた災害ボランティアネットワーク」（以下、「きたボラ」という。）を結成しました。

3 平常時の活動について

平常時は、区民の防災意識の啓発のために様々な活動を行っています。

＜地域での防災講座の実施＞

[主な内容]

- ・家具の転倒防止について
- ・ガラス飛散防止の方法について
- ・防災頭巾の作り方について
- ・非常食の作り方について



災害ボランティア養成講座の様子



災害ボランティアセンター立ち上げ訓練での被災者のニーズ受付訓練を実施



北区総合防災訓練にて災害ボランティアセンターについて住民に説明



北区総合水防訓練にて災害ボランティア講習を実施して住民の防災意識啓発に努める

- ・液状化の実験について
- ・非常持出品の備蓄について
- ・簡易トイレについて
- ・北区総合水防訓練、総合防災訓練で災害ボランティア講習を実施し、いざという時の備えについて住民に周知しています

＜資質向上の取組＞

- ・毎月第2土曜日に定例会を実施して、会員同士の情報交換及び勉強会を実施しています。
- ・北区総合水防訓練、総合防災訓練に参加し、災害時の備えについての知識を深めています。

4 災害ボランティア養成講座の実施 (毎年、実施)

平成 29 年度は社会福祉協議会・生涯学

習センターとの共催により講座を実施し、住民に災害時における「自助」「共助」の意識啓発を行い、きたボラの会員の募集に努めています。

5 災害支援活動(例)

- ・「平成 20 年 8 月末豪雨災害」では、被災者宅を 1 軒 1 軒訪問し、高齢者世帯、ひとり暮らし世帯を中心に片づけや清掃活動を実施しました。
- ・東日本大震災で被災した宮城県七が浜で災害ボランティアセンターの運営協力と被災者のお宅の支援活動に協力しました（平成 22 年 6 月）。
- ・南木曽町豪雨災害では、現地の災害ボランティアセンターの運営に協力しました（平成 26 年 7 月）。